

環境問題に対する奈良県民の意識・行動等に関する調査結果

要 約

- ①「環境問題」についての将来への不安の有無は、「かなり不安を感じている」39.3%、「やや不安を感じる」53.5%と、「かなり」「やや」合わせて92.8%が「不安を感じている」としている。「かなり不安を感じている」は、「50歳代」(48.7%)、「60歳代」(48.0%)で特に多い。
- ②関心の高い環境問題のテーマ(複数回答)は、「地球温暖化」82.6%が最も多く、次いで「異常気象」67.3%、「大気汚染」36.2%、「森林の荒廃・減少」33.0%、「ゴミの増大」30.6%などが続いている。
- ③日頃の買い物に際して、家庭での環境を意識した買い物行動の実行状況は、以下のとおり。

【*「(いつも+だいたい) 実行している」の割合】

主な買い物行動	割合(*)
近所への買い物は、徒歩や自転車で行く	約34%
シャンプー・洗剤などの詰め替え式の商品を選ぶ	約84%
環境ラベルが付いたものを選ぶ	約29%
環境への取組みが進んでいる企業の商品を買う	約22%
使い捨て商品なるべく買わない	約38%
「地元産」「旬」のものを選ぶ	約54%
レジ袋を断り、マイバック(買い物袋)を使う	約41%
家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ	約64%
家電製品など、修理できる物はできるだけ修理して使う	約60%
友人や知人と、不要品を融通しあう	約17%

- ④生活水準と環境問題との関係では、「現在の生活水準を多少落としてでも、環境問題の解決に取り組むべきである」41.3%が最も多い。
- ⑤環境問題の解決のために重要なこと(複数回答)としては、「個々人の意識改革」74.6%が最も多く、次いで「生活習慣の見直し」42.6%、「国や県・市町村の取組み・規制の強化」36.7%などが続いている。

調査結果の留意点

- ①四捨五入の関係で、比率の合計が100%にならない場合がある。
 - ②複数回答の質問では、回答者総数を分母に構成比を算出しているため、百分率の合計が100%を超える場合がある。
- *「n」=回答者総数、あるいは各質問の該当者数

【調査要領】

①調査実施時期

2008年8月4日(月)～8月5日(火)

②調査方法

奈良県下の南都銀行の本支店(34か店)の来店客にアンケートへの回答を依頼(無記名方式)。

【調査実施店舗(順不同)】

本店営業部、紀寺、西大寺、西ノ京、平城、学園前、登美が丘、富雄、生駒、東生駒、郡山、筒井、天理、天理南、名阪針、桜井、榛原、菟田野、大淀、上市、高田、高田本町、香芝、真美ヶ丘、新庄、御所、橿原、真菅、神宮前、王寺、西大和、法隆寺、田原本、五条

③調査対象者…1,000人【対象:奈良県に居住の方】

うち有効回答者数952人【有効回答率:95.2%】

【回答者の概要】

①性別(図表不掲載)

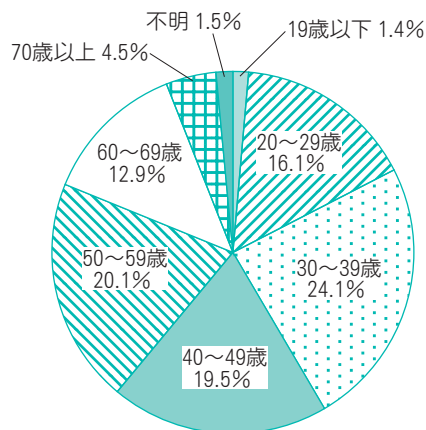
「男性」が40.1%(382人)、「女性」が58.2%(554人)、「無回答(不明)」が1.7%(16人)。

②年齢(参考:図1)

「30歳代」が24.1%と最も多く、次いで「40歳代」19.5%、「50歳代」20.1%が続いている。

なお、「19歳以下」は1.4%(13人)と少ないため、本稿では「19歳以下」を「20歳代」16.1%と合算し、「30歳未満」17.4%として分析している。

参考:図1 回答者の年齢



1 環境問題についての将来への不安

日常生活の中で「環境問題」について、将来への不安を感じることがあるか聞いたところ、全体では「かなり不安を感じている」39.3%、「やや不安を感じる」53.5%と、「かなり」「やや」合わせて92.8%が「不安を感じている」としている。一方、「あまり不安を感じていない」3.7%、「全く不安を感じていない」0.5%と、「あまり」「全く」合わせて4.2%が「不安を感じていない」としている（「どちらともいえない」2.7%）（図1）。

性別でみると、「かなり不安を感じている」は女性（41.5%）が男性（36.9%）より4.6ポイント高い。

年代別の特徴をみると、「（かなり+やや）不安を感じている」は、「40歳代」（97.3%）、「60歳代」（96.7%）、「70歳以上」（95.3%）でその割合が多い。また、「かなり不安を感じている」は、「50歳代」（48.7%）、「60歳代」（48.0%）で特に多く、これらの年代では2人に1人が、「環境問題」について将来への不安を強く感じていることがわかる（図2）。

居住地域別では、「（かなり+やや）不安を感じている」は、「五條市」（100.0%）、「桜井市」（97.8%）などでその割合が多い。また、「かなり不安を感じている」は、「葛城市」（53.1%）が最も多く、「香芝市」（26.8%）が最も少ない（図3）。

図1 環境問題についての将来への不安

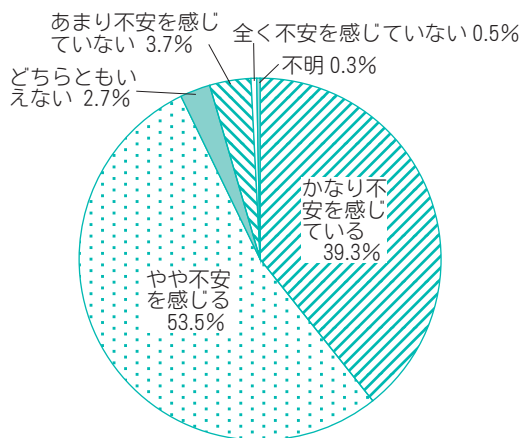


図2 環境問題についての将来への不安

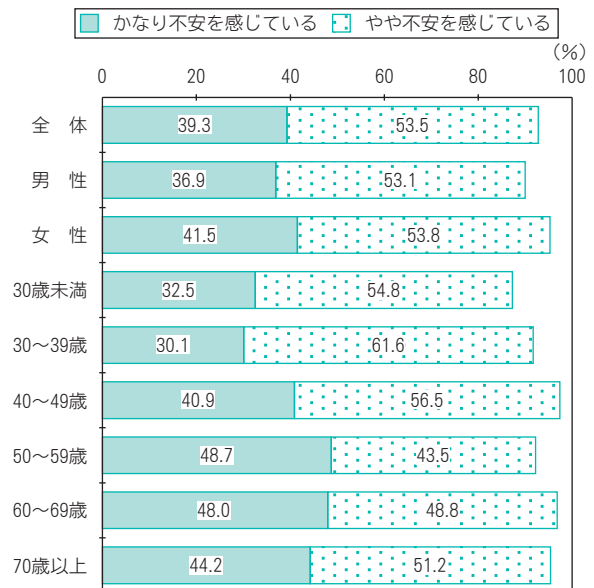
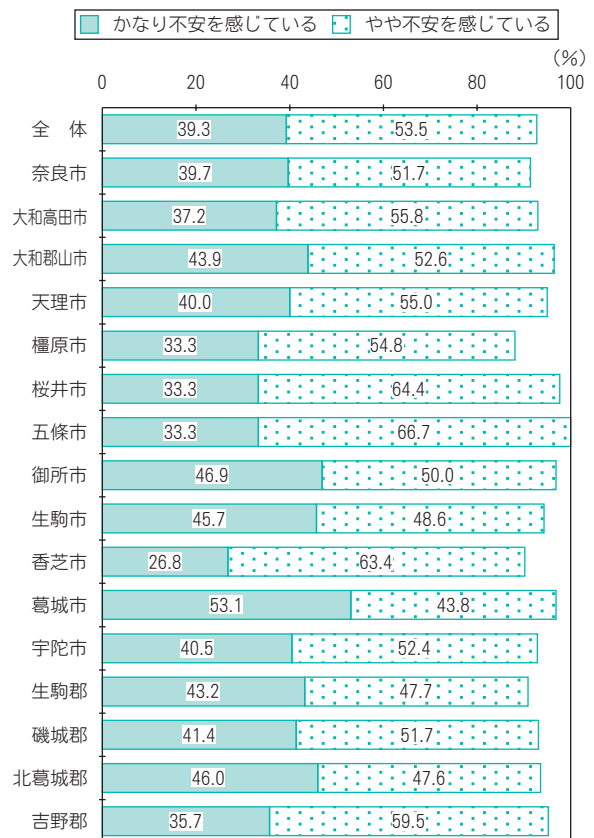


図3 環境問題についての将来への不安



特集

2 関心の高い環境問題のテーマ

関心の高い環境問題のテーマ【複数回答、主なものの5つ以内】を聞いたところ、全体では「地球温暖化」82.6%が最も多く、次いで「異常気象」67.3%、「大気汚染」36.2%、「森林の荒廃・減少」33.0%、「ゴミの増大」30.6%、「河川・海洋汚染」26.2%が続いている。また、「風力発電・太陽光発電などのクリーンエネルギーの開発・実用化」20.4%、「リサイクル（再生利用）・リユース（再利用）等の推進」18.3%など、約5人に1人が環境問題の緩和策に対する関心が高いとしている（図4）。

性別でみると、女性は、「地球温暖化」85.9%（男性78.5%）、「異常気象」73.6%（同58.9%）、「ゴミの増大」32.5%（同27.7%）、「ダイオキシン等の有害物質による環境汚染」15.7%（同8.9%）で、男性よりも約5～15ポイント高く、特定の環境問題に対して男性よりも関心度が高いと言える。年代別（図表不掲載）でみると、「異常気象」や「大気汚染」は年代の上昇に伴い、概ねその割合が高くなっている。

居住地域別の特徴（項目別に全体の数値より10ポイント以上高い居住地域）をみると、「吉野郡」では「地球温暖化」92.9%（全体82.6%）、「異常気象」81.0%（同67.3%）、「森林の荒廃・減少」50.0%（同33.0%）でその割合が高くなっている。

また、「宇陀市」では「自然破壊による動植物の減少や生態系の変化」38.1%（全体22.3%）、「土壌汚染」19.0%（同8.5%）でその割合が高い（図5）。

一方、「大気汚染」（全体36.2%）では「生駒郡」が54.5%、「ゴミの増大」（全体30.6%）では「香芝市」が41.5%と、それぞれ割合が高くなっている。奈良県の人口（2005年10月1日現在）が2000年比で1.5%減少しているなか、香芝市では同11.8%増と県内で唯一二桁増加が続いていることから、ゴミの処分などインフラ整備に対する不安が高まっていると思われる。

図4 関心の高い環境問題のテーマ【上位10項目】

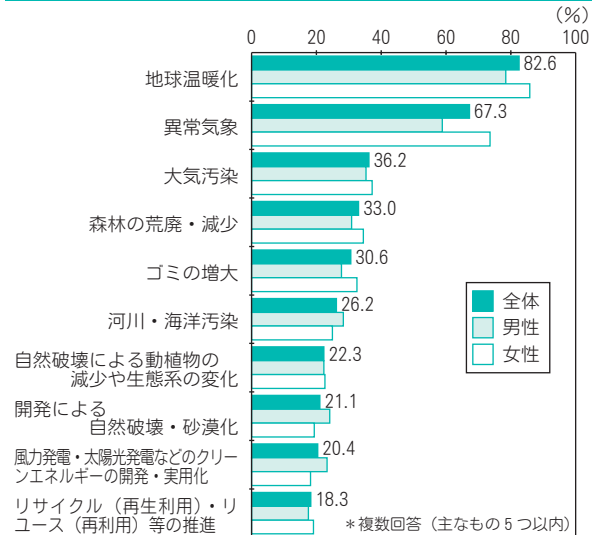


図5 関心の高い環境問題のテーマ【複数回答：全体の上位13項目】

	n	地球温暖化	異常気象	大気汚染	森林の荒廃・減少	ゴミの増大	河川・海洋汚染	自然破壊による動植物の減少や生態系の変化	開発による自然破壊・砂漠化	クリーンエネルギーの開発・実用化	リサイクル・リユース等の推進	家電製品等粗大ゴミの不法投棄	ダイオキシン等の有害物質による環境汚染	土壌汚染
全体	952	82.6	67.3	36.2	33.0	30.6	26.2	22.3	21.1	20.4	18.3	14.2	12.8	8.5
奈良市	209	82.8	71.8	39.2	39.2	33.0	28.7	24.4	22.0	20.6	19.6	14.8	14.8	7.7
大和高田市	43	86.0	67.4	37.2	16.3	23.3	30.2	11.6	7.0	16.3	20.9	4.7	14.0	14.0
大和郡山市	57	77.2	73.7	33.3	26.3	38.6	29.8	19.3	21.1	24.6	22.8	21.1	7.0	5.3
天理市	60	70.0	65.0	43.3	26.7	26.7	35.0	25.0	23.3	13.3	18.3	15.0	8.3	11.7
橿原市	84	79.8	61.9	44.0	36.9	33.3	22.6	17.9	19.0	22.6	16.7	19.0	15.5	7.1
桜井市	45	82.2	62.2	40.0	40.0	31.1	26.7	13.3	22.2	26.7	8.9	15.6	8.9	11.1
五條市	24	91.7	75.0	33.3	37.5	25.0	16.7	16.7	16.7	16.7	41.7	8.3	12.5	16.7
御所市	32	90.6	62.5	9.4	21.9	31.3	15.6	28.1	28.1	28.1	15.6	18.8	9.4	0.0
生駒市	70	90.0	74.3	35.7	27.1	31.4	27.1	24.3	30.0	25.7	15.7	10.0	12.9	10.0
香芝市	41	78.0	61.0	36.6	17.1	41.5	24.4	26.8	12.2	29.3	22.0	17.1	12.2	9.8
葛城市	32	87.5	40.6	12.5	21.9	25.0	9.4	6.3	18.8	12.5	9.4	3.1	0.0	0.0
宇陀市	42	81.0	73.8	38.1	28.6	21.4	35.7	38.1	19.0	14.3	19.0	11.9	11.9	19.0
生駒郡	44	81.8	63.6	54.5	36.4	29.5	15.9	18.2	22.7	6.8	13.6	13.6	13.6	4.5
磯城郡	29	89.7	72.4	31.0	27.6	31.0	31.0	10.3	6.9	20.7	20.7	17.2	20.7	13.8
北葛城郡	69	87.3	63.5	33.3	41.3	25.4	28.6	30.2	31.7	23.8	22.2	9.5	12.7	6.3
吉野郡	42	92.9	81.0	33.3	50.0	28.6	26.2	31.0	21.4	19.0	11.9	14.3	21.4	7.1

3 環境を意識した買い物行動の実行状況

日頃の買い物に際して、回答者の家庭で環境を意識した買い物行動（15項目）をどの程度行っているか聞いたところ、結果は以下のとおりであった。

①近所への買い物は、徒歩や自転車で行く

全体では、「いつも+だいたい」実行している」は33.7%となっているが、「(ほとんど+全く) 実行していない」も37.1%と多い。年代別では、「いつも+だいたい」実行は、「60歳代」(48.0%)、「70歳以上」(58.1%)でその割合が多いが、「30歳未満」(30.1%)、「30歳代」(23.6%)で同割合が少なくなっている(図6)。

居住地域別では、「いつも+だいたい」実行している」は、「吉野郡」で11.9%、「五條市」で16.7%と、特に少なくなっている(図表不掲載)。

②シャンプー・洗剤などの詰め替え式の商品を選ぶ

全体では、「いつも+だいたい」実行している」は83.8%となっており、「(ほとんど+全く) 実行していない」は5.1%と少ない。年代別の特徴をみると、「いつも+だいたい」実行は、「30歳代」「40歳代」(各々88.2%)、「50歳代」(86.9%)でその割合が多いが、「30歳未満」(75.3%)、「70歳以上」(76.7%)で同割合が少なくなっている(図7)。

③エコマークなどの環境ラベルが付いたものを選ぶ

全体では、「いつも+だいたい」実行している」は29.4%とやや少ないが、環境ラベルの付いた商品の少なさやラベルの分かりづらさ等を考慮すると、実行状況が少ないのは仕方がないと思われる。なお、「時々実行している」は37.1%と多い(図8)。

年代別では、「いつも+だいたい」実行は、「60歳代」(50.4%)、「70歳以上」(44.2%)で多く、「30歳未満」(12.7%)、「30歳代」(21.4%)で少ない。

図6 近所への買い物は、徒歩や自転車で行く

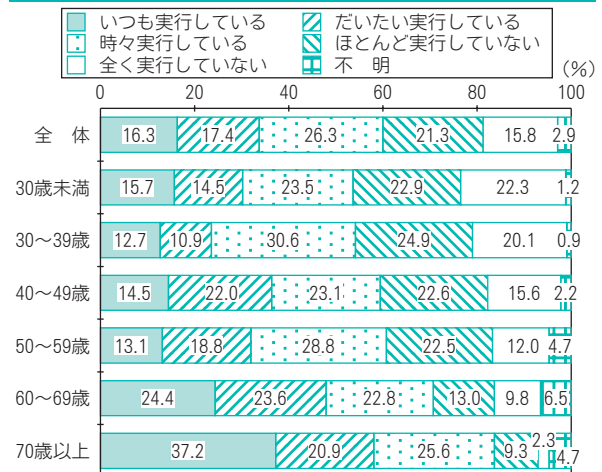


図7 シャンプー・洗剤などの詰め替え式の商品を選ぶ

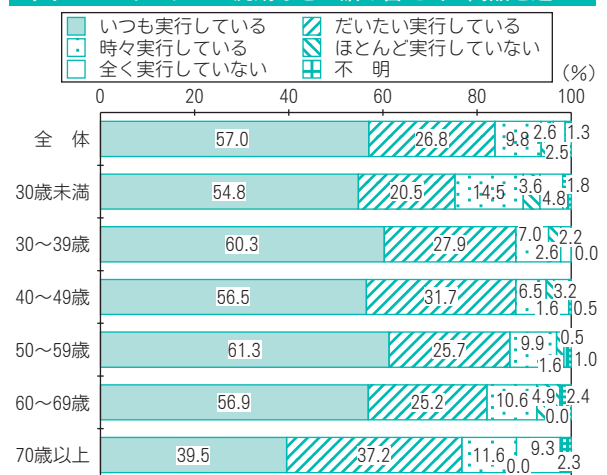
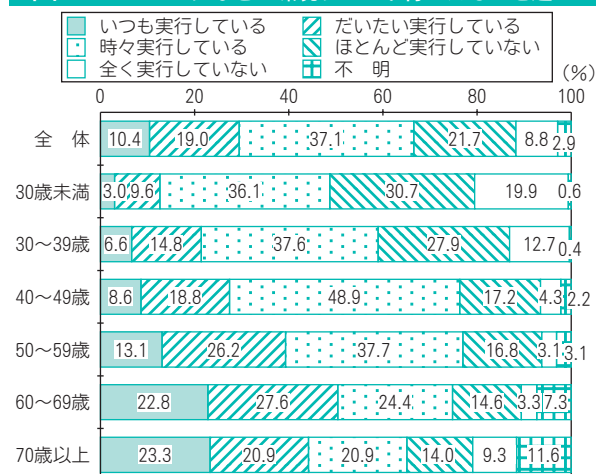


図8 エコマークなどの環境ラベルが付いたものを選ぶ



特集

④環境への取組みが進んでいる企業の商品を買う

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は21.8%とやや少なく、「(ほとんど+全く) 実行していない」が35.6%と多くなっている。一般消費者にとって、環境への取組みが進んでいる企業がわかりづらいことを踏まえると、実行状況が少ないのは仕方がないと思われる。なお、「時々実行している」は38.8%と多い(図9)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「70歳以上」(39.5%)、「60歳代」(38.2%)でその割合が多く、「30歳未満」(14.5%)、「30歳代」(15.7%)、「40歳代」(15.6%)で同割合が少なくなっている。

⑤使い捨て商品をなるべく買わない

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は38.4%となっており、「時々実行している」は39.5%となっている(図10)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は「30歳未満」(28.3%)が最も少なく、「30歳代」(31.0%)、「40歳代」(36.6%)と年代が上昇するに連れて同割合が多くなっている。特に、「70歳以上」では60.5%と、「30歳未満」のほぼ倍の割合で実行されている。

⑥「地元産」「旬」のものを選ぶ

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は54.3%と過半数を占めている(図11)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「60歳代」(74.0%)、「70歳以上」(72.1%)でその割合が多いが、「30歳未満」(42.8%)、「30歳代」(47.6%)でやや少なくなっている。

輸入食材の増大や、野菜や果物等の温室栽培などにより私達の食生活は豊かになっているが、「地元産」「旬」を意識した購買が、消費エネルギーの削減など環境負荷の軽減につながることを幅広い世代に対して啓蒙していく必要があると思われる。

図9 環境への取組みが進んでいる企業の商品を買う

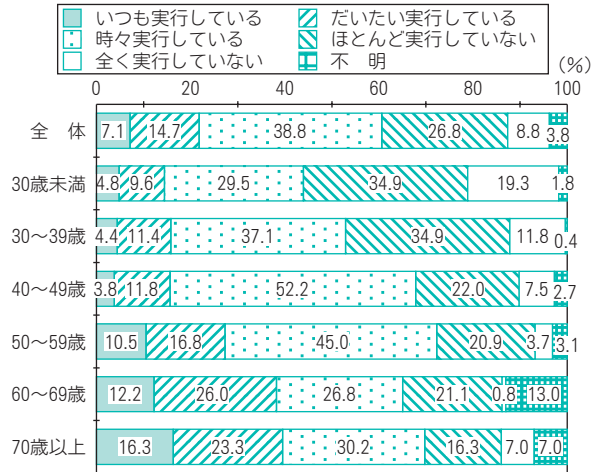


図10 使い捨て商品をなるべく買わない

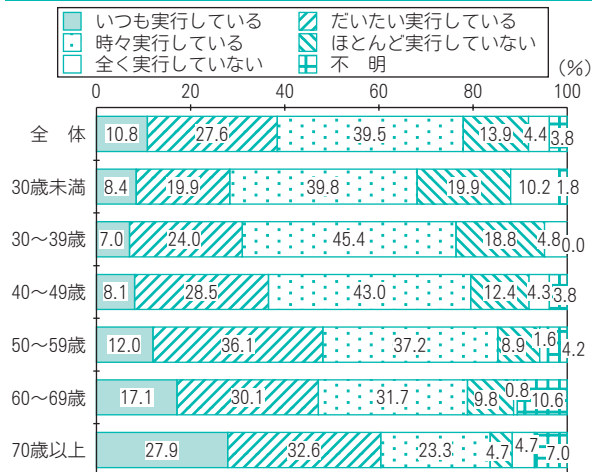
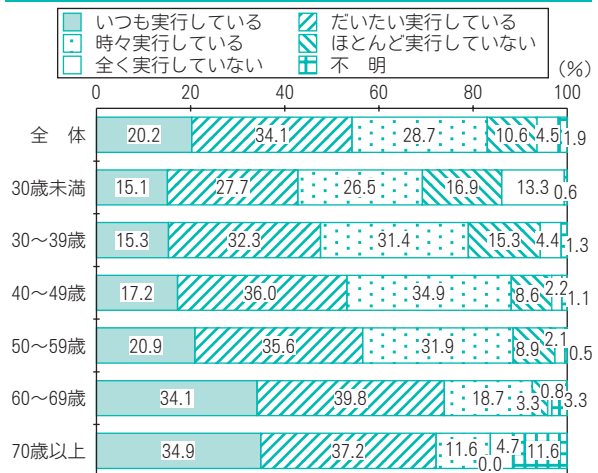


図11 「地元産」「旬」のものを選ぶ



⑦必要なものを必要な量だけ買う

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は69.2%となっている。年代別では、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「60歳代」(74.8%)でその割合が多く、「50歳代」(65.4%)、「40歳代」(67.7%)で同割合がやや少なくなっている。一方、「30歳未満」(71.7%)については、同割合は年代別で最も少ないと予想していたが、「60歳代」に次ぐ多さとなっている(図12)。

居住地域別では、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「天理市」で80.0%、「磯城郡」で79.3%と特に多く、「香芝市」で56.1%、「宇陀市」で57.1%と少なくなっている(図表不掲載)。

⑧過剰包装は断り、簡易包装にしよう

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は53.6%となっている(図13)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「40歳代」「50歳代」(各々56.5%)、「70歳以上」(55.8%)、「30歳未満」(55.4%)でその割合が多くなっている。

⑨レジ袋を断り、マイバック(買い物袋)を使う

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は41.0%となっているが、「(ほとんど+全く) 実行していない」も31.2%と多い(図14)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「50歳代」(52.4%)、「70歳以上」(46.5%)でその割合が多いが、「30歳未満」(31.9%)、「30歳代」(33.6%)で同割合が少なくなっている。

一方、「(ほとんど+全く) 実行していない」は、「30歳未満」(42.8%)、「30歳代」(34.1%)、「70歳以上」(30.2%)で、他の年代よりやや多い。

居住地域別では、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「生駒市」で55.7%、「生駒郡」で54.5%と特に多く、「御所市」で21.9%、「五條市」で29.2%、「吉野郡」で31.0%と少なくなっている(図表不掲載)。

図12 必要なものを必要な量だけ買う

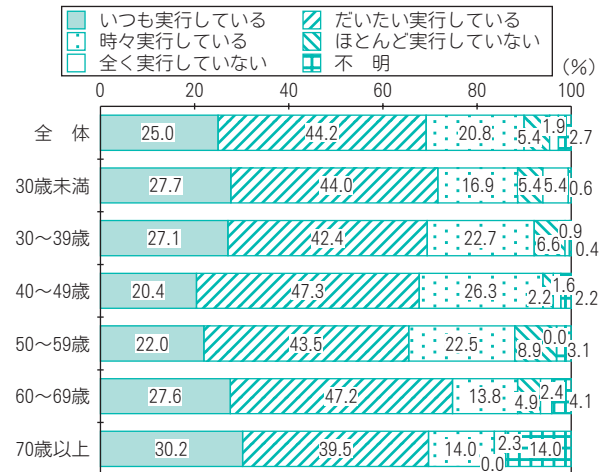


図13 過剰包装は断り、簡易包装にしよう

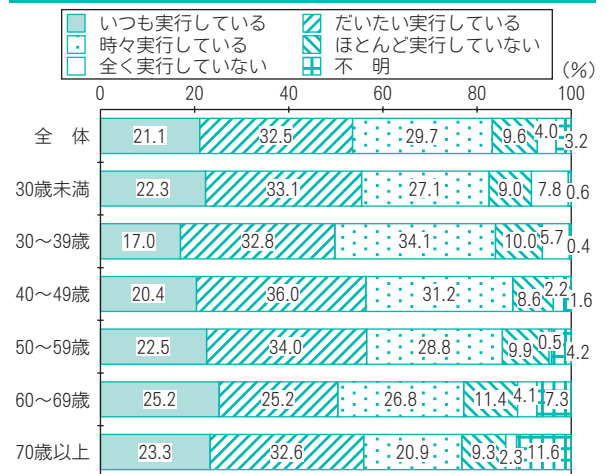
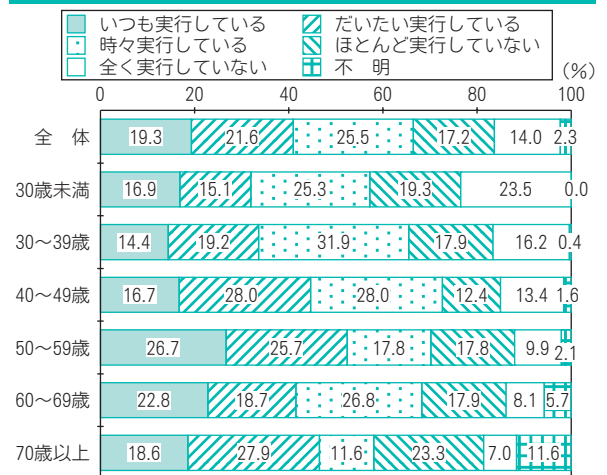


図14 レジ袋を断り、マイバック(買い物袋)を使う



特集

⑩買わずにレンタル・リースの製品を使うことを心がける

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は8.3%と少なく、「(ほとんど+全く) 実行していない」も64.5%と多い。なお、「時々実行している」は23.1%となっている(図15)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「70歳以上」(14.0%)、「30歳未満」(13.3%)でその割合が多くなっており、これらの年代ではレンタル・リース製品の利用に対する抵抗感が少ないと思われる。一方、他の年代では、やや「所有」意識が高いと思われる。

⑪家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は63.6%と多くっており、「(ほとんど+全く) 実行していない」は8.3%と少ない(図16)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「60歳代」(73.2%)でその割合が多いが、「30歳未満」(55.4%)で同割合が少なくなっている。

また、「30歳未満」では、「(ほとんど+全く) 実行していない」が18.1%と同割合が多くなっている。一部の若い世代では、省資源・省エネ型よりも、デザインや機能性等を重視する割合が高まりやすいため、このような結果になっていると思われる。

⑫家電製品など、修理できる物はできるだけ修理して使う

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は60.1%と多くっており、「(ほとんど+全く) 実行していない」は12.7%と少ない(図17)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「60歳代」(69.9%)でその割合が多くなっているが、「70歳以上」(53.5%)で同割合が少なくなっている。

また、「(ほとんど+全く) 実行していない」は、「30歳未満」で18.7%とその割合が多くなっている。

図15 買わずにレンタル・リースの製品を使うことを心がける

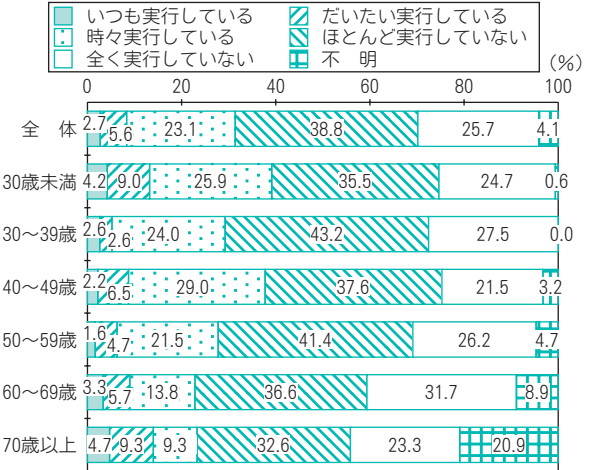


図16 家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ

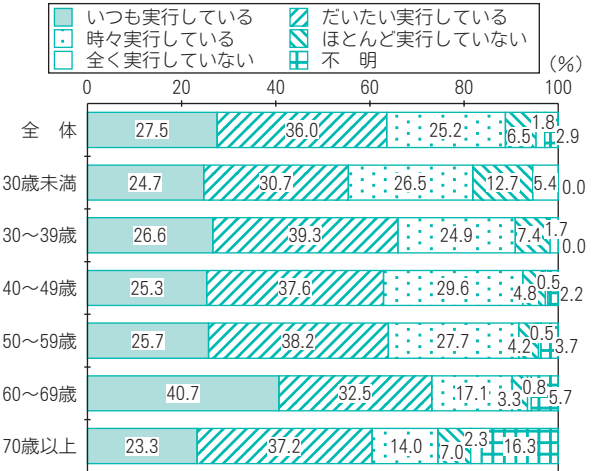
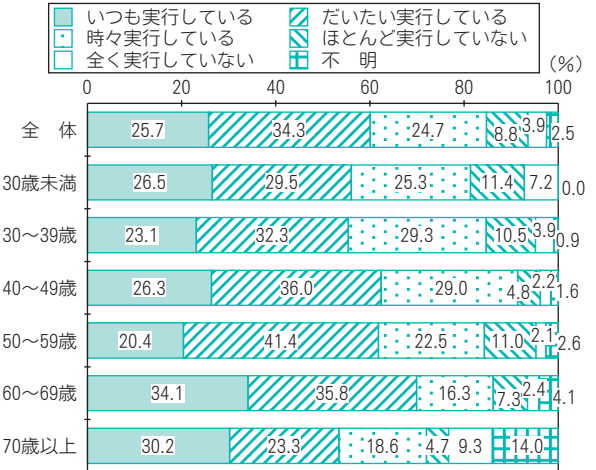


図17 家電製品など、修理できる物はできるだけ修理して使う

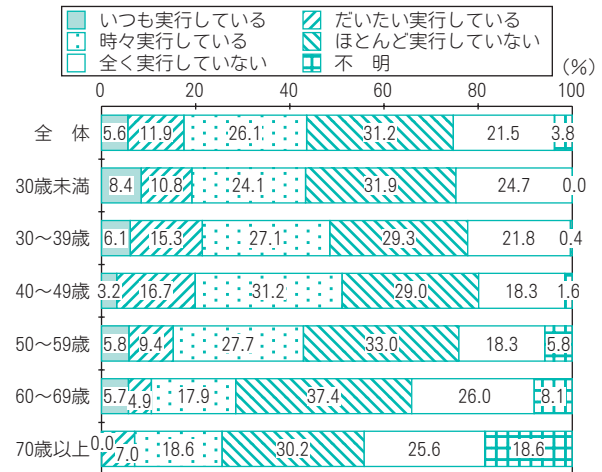


⑬友人や知人と、不要品を融通しあう

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は17.4%と少なく、「(ほとんど+全く) 実行していない」は52.7%と多くなっている。なお、「時々実行している」は26.1%となっている(図18)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「30歳代」(21.4%)、「40歳代」(19.9%)、「30歳未満」(19.3%)でその割合が多いが、「60歳代」(10.6%)、「70歳以上」(7.0%)で同割合が少なくなっている。この結果から、若い年代では、友人間や子育て世代の親同士とのネットワークを活かして、不用品を融通しあうことがある程度行われていると思われる。

図18 友人や知人と、不要品を融通しあう

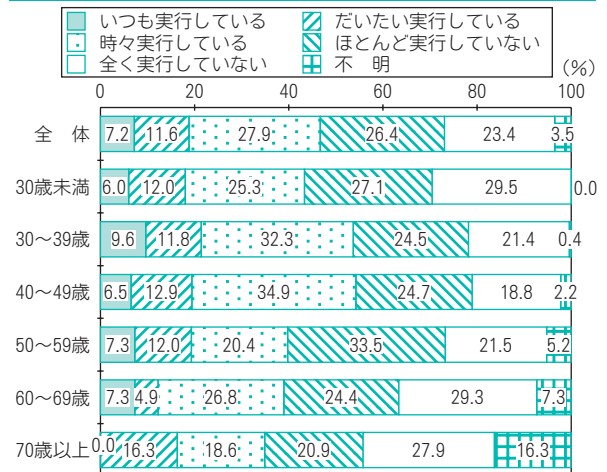


⑭不用品は、リサイクルショップやバザーで再利用に回す

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は18.8%と少なく、「(ほとんど+全く) 実行していない」が49.8%とほぼ半数を占めている。なお、「時々実行している」は27.9%となっている(図19)。

年代別の特徴をみると、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「30歳代」(21.4%)、「40歳代」「50歳代」(各々19.4%)でその割合がやや多くなっている。

図19 不用品は、リサイクルショップやバザーで再利用に回す



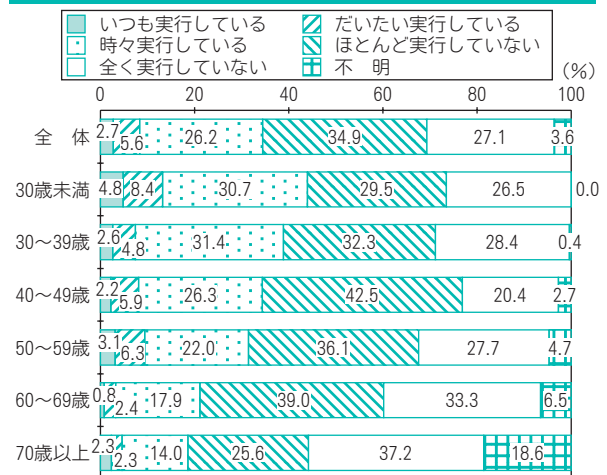
⑮新製品は買わずに、中古品を利用している

全体では、「(いつも+だいたい) 実行している」は8.3%と少なく、「(ほとんど+全く) 実行していない」が62.0%と多い。なお、「時々実行している」は26.2%となっている(図20)。

年代別では、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「30歳未満」(13.3%)でその割合が多く、「60歳代」(3.3%)、「70歳以上」(4.7%)で同割合が少なくなっている。「(ほとんど+全く) 実行していない」は、「60歳代」(72.4%)でその割合が多い。

居住地域別では、「(いつも+だいたい) 実行している」は、「大和郡山市」で15.8%と多い。一方、「(ほとんど+全く) 実行していない」は、「御所市」で84.4%と多くなっている(図表不掲載)。

図20 新製品は買わずに、中古品を利用している



特集

4 生活水準と環境問題との関係に対する考え方

生活水準と環境問題との関係について、回答者の考えに最も近いものはどれか聞いたところ、全体では「現在の生活水準（物質的な豊かさや便利さ）を多少落としてでも、環境問題の解決に取り組むべきである」41.3%が最も多く、次いで「現在の生活水準を維持したまま、環境問題の解決に取り組む方策を考えるべきである」38.0%、「環境問題の解決のための金銭的な負担（税金や寄付等）はしても良いが、生活水準は落とさたくない」13.6%、「現在の生活水準を落としてまで、環境問題の解決に取り組む必要はない」2.8%と続いている（図21）。

性別でみると、「現在の生活水準を多少落としてでも、環境問題の解決に取り組むべきである」は、女性が43.1%と男性（39.8%）よりやや多い。また、「現在の生活水準を維持したまま、環境問題の解決に取り組む方策を考えるべきである」についても、女性が40.1%と男性（36.4%）よりやや多い。

一方、「環境問題の解決のための金銭的な負担はしても良いが、生活水準は落とさたくない」は、男性が17.0%と女性（11.4%）よりやや多くなっている。男性の約6人に1人は、環境問題の解決のために一定の金銭負担は止むを得ないと考えている。

年代別の特徴をみると、年代が上昇するにつれて「現在の生活水準を多少落としてでも、環境問題の解決に取り組むべきである」の割合が増加傾向にあり、「70歳以上」（48.8%）では特にその割合が多くなっている。一方、「現在の生活水準を維持したまま、環境問題の解決に取り組む方策を考えるべきである」の割合は、年代が低下するにつれてその割合が増加する傾向にあり、「30歳未満」（41.6%）では特に同割合が多くなっている（図22）。

図21 生活水準と環境問題との関係に対する考え方

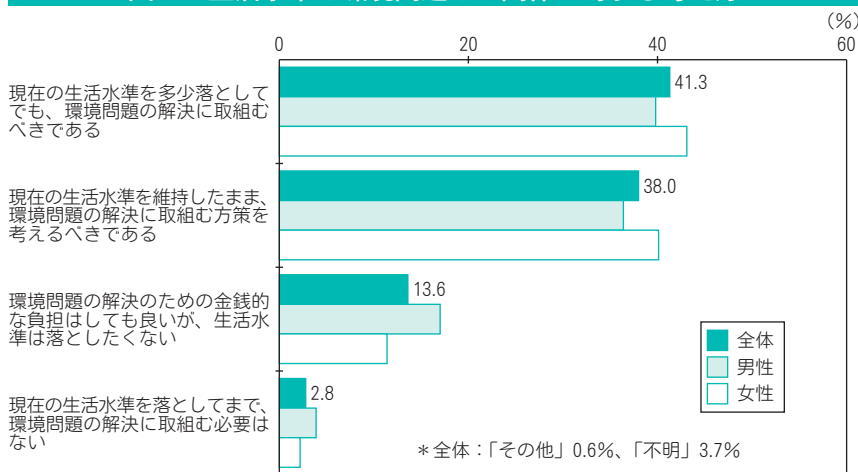
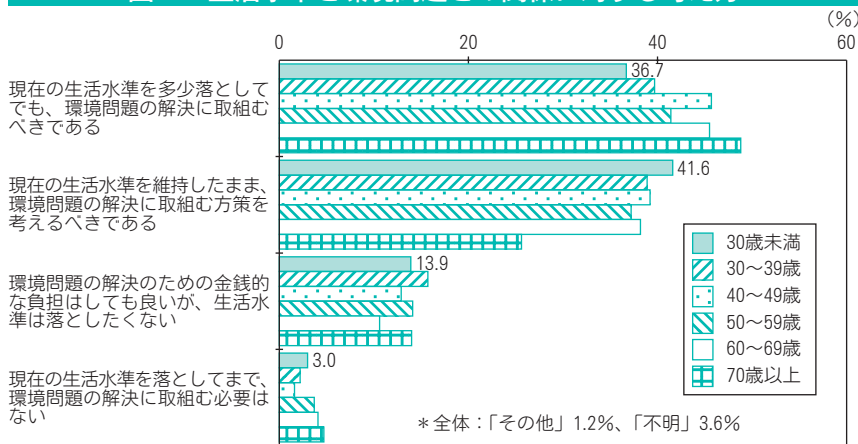


図22 生活水準と環境問題との関係に対する考え方



5 環境問題の解決に重要なこと

環境問題の解決のために何が重要であるか【複数回答、重要度の高いもの3つ以内】聞いたところ、全体では「個々人の意識改革（各自が環境に対する意識を高めること）」74.6%が最も多く、次いで「生活習慣（ライフスタイル）の見直し」42.6%、「国や県・市町村の取組み・規制の強化」36.7%、「技術革新（省エネやリサイクル等に役立つ技術開発の進展）」31.5%、「環境問題に関する情報をわかりやすく国民に伝えること」28.8%、「環境問題の解決に積極的な企業や団体への経済的な支援（補助金の交付、税負担の軽減等）」19.0%、「資金・財源の確保（環境税の創設、消費税の増税、予算配分の見直しなど）」14.5%と続いている（図23）。

性別で見ると、「個々人の意識改革」は、女性（79.8%）が男性（70.2%）より9.6ポイント高い。また、「環境問題に関する情報をわかりやすく国民に伝えること」も、女性（31.8%）が男性（25.7%）よりやや多くなっている。一方、「技術革新」は、男性（38.5%）が女性（27.6%）より10.9ポイント高い。

年代別の特徴をみると、「個々人の意識改革」は「70歳以上」（58.1%）以外の年代で70.0%以上と割合が多くなっている。「生活習慣の見直し」では、「70歳以上」（48.8%）、「40歳代」（47.3%）、「30歳代」（46.3%）でその割合が多い（図24）。

また、「国や県・市町村の取組み・規制の強化」は「70歳以上」（48.8%）で最も多く、「環境問題に関する情報をわかりやすく国民に伝えること」は「60歳代」（35.8%）でその割合が多くなっている。

居住地域別では、「個々人の意識改革」は「北葛城郡」で89.7%、「香芝市」で85.4%と多い。また、「国や県・市町村の取組み・規制の強化」は「香芝市」で53.7%と多くなっている（図表不掲載）。

図23 環境問題の解決に重要なこと【上位8項目】

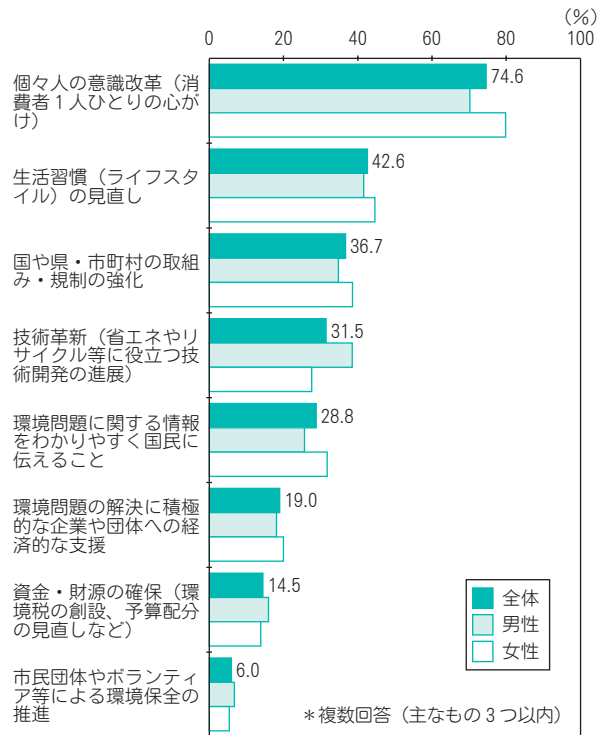
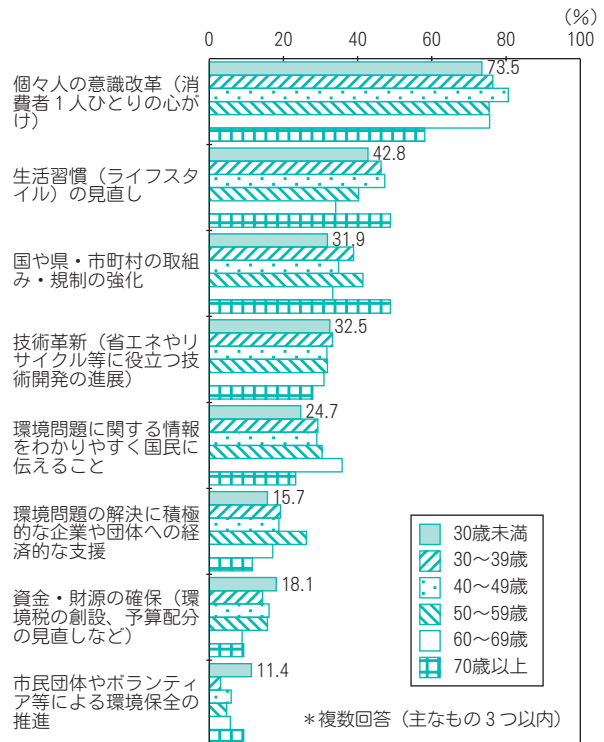


図24 環境問題の解決に重要なこと【全体の上位8項目】



総括

■環境問題についての将来への不安

環境問題に「(かなり+やや)不安を感じている」は92.8%と多い。国民・県民に環境問題の現状や対策の進捗状況などの情報を迅速かつ的確に提供していくことが重要となってきた。

■関心の高い環境問題のテーマ【複数回答】

クリーンエネルギーやリサイクル・リユース等に関する情報提供の積極化や、環境に優しい暮らし(太陽光発電の利用等)への補助金制度の充実など、県民の環境意識の高まりを側面から支援する施策が期待される。また、家庭ゴミの有料化や分別回収の促進等の分野について、全国で成功している先進事例の研究・導入などの積極的な対応が必要である。

■環境を意識した買い物行動の実行状況

環境ラベルの付いた商品を増やすための支援やそれらの積極的なPR、環境への取組みが進んでいる県内企業の表彰・PRなどの支援が期待される。

また、不用品を気軽に融通し合える相手を見つけることができる仕組みづくり(例:小中学生の保護者間での交流、NPO活動等)として、出会いのきっかけづくりや、情報交換の場(学校の空き教室、ホームページ等)の提供などが有効と思われる。

■生活水準と環境問題との関係に対する考え方

「現在の生活水準を多少落としてでも、環境問題の解決に取り組むべき」が41.3%、「現在の生活水準を維持したまま、環境問題の解決に取り組む方策を考えるべき」が38.0%と、ある意味で対立する意見の割合がほぼ拮抗している。また、「環境問題の解決のための金銭的な負担はしても良いが、生活水準は落としたい」が13.6%となっている。

環境問題の解決には、利害関係が複雑に絡んでくるが、受益者負担を原則としながらも、県民全体としての問題意識の共有化、解決に向けたコンセンサスづくりが必要となってくる。

■環境問題の解決に重要なこと【複数回答】

規制強化や技術革新も必要だが、やはり県民の「個々人の意識改革」74.6%や「生活習慣の見直し」42.6%が環境問題の解決には不可欠である。環境問題の現状や将来的な見通し、先進地との比較など、環境問題に関する情報をわかりやすく県民に提供していくことが重要と考える。

(島田清彦)

参考 回答者の概要

①性別【再掲】

「男性」が40.1%(382人)、「女性」が58.2%(554人)、「無回答(不明)」が1.7%(16人)。

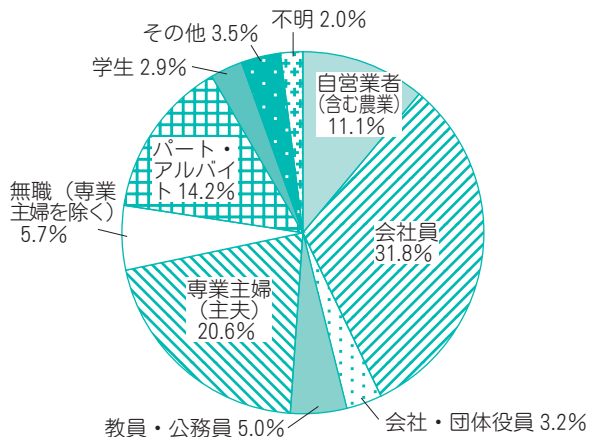
②年齢【再掲】

「30歳代」が24.1%と最も多く、次いで「40歳代」19.5%、「50歳代」20.1%が続いている。

③職業(参考:図2)

「会社員」が31.8%と最も多く、次いで「専業主婦(主夫)」20.6%、「パート・アルバイト」14.2%、「自営業者(含む農業)」11.1%が続いている。

参考:図2 回答者の職業



④同居家族(回答者を含む、図表不掲載)

「配偶者」が65.1%と最も多く、次いで「65歳以上の方」23.1%、「小・中学生」21.1%、「高校・大学生」20.1%、「乳幼児」12.2%が続いている。

対象：奈良県にお住まいの方

環境に関する県民の意識・行動等に関するアンケート

財団法人南都経済センター

*特に断りのない限り、選択肢の中から該当する項目を1つ選び、その番号に○をつけて下さい。

問 1. 日常生活の中で、「環境問題」(水や空気の汚染、異常気象など)について、将来への不安を感じることがありますか。

- 1. かなり不安を感じている
- 2. やや不安を感じる
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり不安を感じていない
- 5. 全く不安を感じていない

問 2. どのような環境問題に関心がありますか。関心の高い環境問題のテーマ【主なもの5つ以内】を選んで下さい。

- 1. 地球温暖化
- 2. 異常気象
- 3. 大気汚染
- 4. 河川・海洋汚染
- 5. 上壊汚染
- 6. 悪臭
- 7. 騒音・振動
- 8. 森林の荒廃・減少
- 9. ゴミの増大
- 10. 家電製品等粗大ゴミの不法投棄
- 11. 開発による自然破壊・砂漠化
- 12. ダイオキシン等の有害物質による環境汚染
- 13. 自然破壊による動植物の減少や生態系の変化
- 14. リサイクル(再生利用)・リユース(再利用)等の推進
- 15. 風力発電・太陽光発電などのクリーンエネルギーの開発・実用化
- 16. 関心の高いテーマはない
- 17. その他(具体的に)

問 3. 日頃の買い物に際して、あなたのご家庭では次のような行動をどの程度行っていますか。①～⑯の各項目について、1～5のうち、あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

*なお、ご家庭内の買い物行動でわからない項目については、○印は不要です。

項 目	頻りに 行っている	頻りに 行いた い	時々 行っ てい る	時々 行っ てい ない	全く 行っ てい ない
①近所への買い物は、徒歩や自転車で行く	1	2	3	4	5
②シャンプー・洗剤などの詰め替え式の商品を選ぶ	1	2	3	4	5
③エコマークなどの環境ラベルが付いたものを選ぶ	1	2	3	4	5
④環境への取組みが進んでいる企業の商品を買う	1	2	3	4	5
⑤使い捨て商品を選ばない	1	2	3	4	5
⑥「地元産」「旬」のものを選ぶ	1	2	3	4	5
⑦必要なものを必要な量だけ買う	1	2	3	4	5
⑧過剰包装は断り、簡易包装にしたらう	1	2	3	4	5
⑨レジ袋を断り、マイバック(買い物袋)を使う	1	2	3	4	5
⑩買わずにレンタル・リースの製品を使うことを心がける	1	2	3	4	5
⑪家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ	1	2	3	4	5
⑫家電製品など、修理できる物はできるだけ修理して使う	1	2	3	4	5
⑬友人や知人と、不要品を融通しあう	1	2	3	4	5
⑭不用品は、リサイクルショップやバザーで再利用に回す	1	2	3	4	5
⑮新製品は買わずに、中古品を利用している	1	2	3	4	5

問 4. 生活水準と環境問題との関係について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

- 1. 現在の生活水準(物質的な豊かさや便利さ)を多少落としても、環境問題の解決に取り組むべきである
- 2. 現在の生活水準を落としてまで、環境問題の解決に取り組む必要はない
- 3. 環境問題の解決のための金銭的な負担(税金や寄付等)はしても良いが、生活水準は落とさない
- 4. 現在の生活水準を維持したまま、環境問題の解決に取り組む方策を考えるべきである
- 5. その他(具体的に)

問 5. 環境問題の解決のために、何が重要であると思いますか。重要度の高いもの【主なもの3つ以内】を選んで下さい。

- 1. 個人個人の意識改革(消費者1人ひとりの心がけ/各自が環境に対する意識を高めること)
- 2. 生活習慣(ライフスタイル)の見直し
- 3. 資金・財源の確保(環境税の創設、消費税の増徴、予算配分の見直しなど)
- 4. 技術革新(省エネやリサイクル等に役立つ技術開発の進展)
- 5. 国や県、市町村の取組み、規制の強化
- 6. 市民団体やボランティア等による環境保全の推進
- 7. 環境問題に関する情報をわかりやすく国民に伝えること
- 8. 環境問題の解決に積極的な企業や団体への経済的な支援(補助金の交付、税負担の軽減等)
- 9. その他(具体的に)

【あなたご自身のことについてお伺いします】

- あなたの性別は? 1. 男性 2. 女性
- あなたの年齢は? 1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
- あなたの職業は?
1. 自営業者(含む農業) 2. 会社員 3. 会社・団体役員
4. 教員・公務員 5. 専業主婦(主夫) 6. 無職(専業主婦を除く)
7. パート・アルバイト 8. 学生 9. その他()
- 同居されているご家族(あなたを含む)で、以下にあてはまる方がいらっしゃいますか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。
1. 配偶者 2. 乳幼児 3. 小・中学生 4. 高校・大学生 5. 65歳以上の方
- 居住されている市町村は? () 市・町・村

ご協力ありがとうございました。